

日本防災士会 久留米支部



日本防災士会久留米支部は、平成 21 年に支部を結成。防災士を中心に地域の防災知識の普及活動等を行うボランティアグループ。防災士以外の方でも加入でき、市外からの参加者も含め、現在、75 名で活動しています。

地域に根ざした活動のきっかけ

地域の防災士は地域の防災・減災の啓発が第一です。防災士の務めとして組織的に活動しよう、地域に貢献や還元をしようという形で始めました。また、万が一災害が起きたときは、組織的かつ

04 支部長 えとう せいごう 江藤 正剛さん。

05 事務局長 たじま こ 田島 スマ子さん。

迅速な対応が求められます。平成 29 年九州北部豪雨では、東峰村の災害ボランティアセンターの運営や、久留米市の災害支援ボランティアバスの送り出しなどの活動を行いました。

私たちの地域の安全・安心のために

防災・減災の取り組みは、まちづくりや地域の安全・安心につながっています。防災士に限らず、何か地域活動を始めてみたい方は、ぜひお近くの校区コミュニティセンターにお声がけください。災害は自分の身近にあります。ご家庭でも日頃から防災のことを話題にし、常に備えることが大切です。



青木校区 自主防災会



青木校区では、平成 27 年より毎月の「防災勉強会」や、全ての自治会への啓発等に取り組んでいます。

まずは自ら動くこと

富田さんは合併に伴う消防団配置車の見直しを機に「初期消火や防災はもっと自分達で備えを強化しなければ、地域は守れない」との想いで 12 年前に自主防災会を発足しました。地域ぐるみの取り組みを積み重ね、様々な意見が出る中、女性からの賛同をはじめとして、少しずつ地域に浸透しました。

06 防災士 とみた たかゆき 富田 孝幸さん。

粘り強く、地域に溶け込むこと

富田さんが属する「四郎丸自治会」と「ふれあいの園（3階建て福祉施設）」は独自に災害協定を締結。自治会住民が施設の要援護者の救助をすることと、水害時は施設の 3 階を自治会住民の避難場所とすること等を取り交しています。

防災は、人と人との積上げ方式で

防災や減災は、地域によって事情が異なるため、行政だけに頼らず、各人が当事者意識を持ち、主体的に考え行動していくことが大切です。そのために日頃からコミュニケーションが必要です。少しでも地域でできることを、自治会から校区へ、全市へ、広めていきたいと思ひます。